

土々呂小学校 令和4年度 自己評価書及び学校評議員評価書

(4段階評価 4・期待以上 3・ほぼ期待通り 2・やや期待を下回る 1・改善を要する)

評価項目	評価項目	学校の自己評価コメント	自己評価	学校関係者評定	学校関係者評価のコメント
学校全体の評価	基礎・基本の定着を図る指導の充実及び、確かな学力の向上をめざした教育活動が展開されている。	<p>○ 全体的に高い評価となっているが、教育相談・児童理解に関する保護者評価が低い。本校では、問題やトラブルの早期発見のために、月一回のアンケート実施、定期的な教育相談を行っている。また、生徒指導連絡会により、全職員で共通理解を図るようにしている。しかし、児童の抱える問題等に教師側が気づいていなかったり、対応が遅れたりしたことにより、保護者評価が低くなっていることが予想される。日頃から児童の様子を観察し、気になる様子が見られたら職員間で話し合ったり、保護者に連絡をしたりして早期に対応をしていく必要がある。</p>	3.3	3.1	<p>○ 自己評価の結果及び今後の改善策は適切である。 ○ よく頑張っている。 ○ ホームページはよく見させてもらっている。 ○ コロナ対策もあり、近年は家庭や地域との関わりも希薄になり、学校運営の在り方に工夫や改善を要する転換期であると思う。 ○ 大変な中での一人一人への対応など、余裕のある現場体制が必要であると思う。 ○ 子どものトラブルや問題は学校側だけでなく、家庭で多くコミュニケーションをとることが早期発見につながると思う。家では、リラックスして本音を言えるような環境づくりが必要と考える。年頃になると難しいかもしれないが、学校での出来事や楽しいかどうかをヒアリングして子どもに寄り添ってあげるべきだと思う。</p>
	運動に親しませ、健康の増進及び体力の向上を図るための教育が展開されている。				
	思いやりや規範意識を育て、心身ともに健全な児童の育成を目指す教育活動が展開されている。				
	悩みやトラブルなどに丁寧に対応するなど教育相談の充実を図るとともに、児童理解に努めている。				
	児童の安全確保や安全対策に配慮するとともに、施設・設備の安全管理に努めている。				
	通信や連絡等により保護者や地域に情報を発信し、地域と協働で学校づくりを進めていくよう努めている。				
児童の学習面の評価	児童は、授業のきまりを守り、熱心に授業に取り組んでいる。	<p>○ 主題研究では、確かな学力を身に付けさせるために、ICTを活用した授業実践を積み重ねてきた。児童のICTを活用する技能も高まってきている。今後は、学力向上に向けた授業での効果的な活用や家庭学習での活用の充実をさらに図っていく必要がある。</p> <p>○ 読書に関する評価が低い。お話会や読み聞かせ、多読賞の表彰等の取組を行っているが、日常的に読書に親しみ、読書への意欲が高まる手立てを考えていく必要がある。</p> <p>○ 相手の考えを聞くことに比べて、自分の考えを相手に伝えることについての数値が低い。授業中に話し合う場を多く取り入れたり、日常生活でも考えを伝えることの大切さを指導したりしていく必要がある。</p>	3.1	3.1	<p>○ 自己評価の結果については適切であるが、改善策については一部改善が必要である。読書については、学校側もいろいろと工夫がされているが、児童の読書への意欲の低下が著しいと思われる。低学年からの意識づけ及び家庭での読み聞かせなどの取組等新たな手立てを考える必要がある。</p> <p>○ 学習面についてはしっかりした指導を望む。 ○ 『話し合う場を多く取り入れる。』方法は、子ども達の成長につながるため、継続してほしい。 ○ 学力が高い・低い個人差があるので何とも言えないが、授業や宿題に取り組む姿勢は、高く評価できると思う。 ○ ネットが普及しているので、読書に対する意識が社会的に低下しているように思える。読書のメリットを発信すると、子どもたち自身が読書をするようになるかもしれない。 ○ 集中して話を聞くことはできていると思う。 ○ 青少協大会の発表でも、自分で作製したものをきちんと伝達できていたと思う。(ICT活用) ○ 人間対人間の関わり方もしっかり身に付けてほしいと思う。 ○ 時代の流れとともに、ICT活用は必然であるが、学校という集団教育の学びの場ではツールの一つとして捉えるのでよいと思う。小学生は、まだ心身ともに未熟で、判断や影響も周囲に受けやすいため、コミュニケーションスキルを伸ばすことが学習面を含めて効果があがると思う。 ○ 読書は、家庭も含めて、親しんでいるとは思えないため、工夫が必要である。</p>
	児童には、(漢字、計算等)基礎学力が身に付いている。				
	児童は、宿題や宅習にしっかりと取り組んでいる。				
	児童は、家や学校でよく読書をしている。				
	児童は、相手の考えや意見をしっかりと聞くことができる。				
	児童は、自分の考えや意見を相手にしっかりと伝えることができる。				

評価項目	評価項目	学校の自己評価コメント	自己評価	学校関係者評定	学校関係者評価のコメント
児童の生徒指導面の評価	児童は、学校や社会のきまりを守って、安全に気をつけて生活している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの項目も児童の評価が高い。きまりを守ったり、思いやりの気持ちをもったりして生活している様子が伺える。 ○ 「あいさつ」については、保護者や児童からは高い評価を得ているが、職員の評価が低い。朝のあいさつ運動を広げたり、日常の声かけを行ったりしてあいさつへの意識を高めさせる必要がある。 	3.2	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価の結果及び今後の改善策は適切である。 ○ 土々呂の町の中で会った時に、よく声をかけてくれたり、あいさつをしてくれたりする。また、交差点での見守りの時にも、あいさつ・声をよくかけてくれる。 ○ まずは家庭でのあいさつをしっかりとできるように、保護者への呼びかけ協力も必要に思う。 ○ 誰にでもあいさつをするが、知らない人について行かないように指導してほしい。 ○ あいさつは比較的元気にしてくれる。こちらがあいさつをしないとあいさつを返してくれない子もいるが、いろいろな性格の子がいると思うので、あまり問題にしていな。 ○ 自転車で乗って猛スピードで走り去る子も目撃し、交通ルール等の教育を強化すべきと感じた。 ○ 学校のルール、社会のルール、一人の人格をもつ人としてのルールなど、家庭環境が多様化する中で、評価が難しいと思う。 ○ 人格形成につなげるためにも、「○」「×」ではなく、意識や思いに気づいたり、変化に対応できるたくましい心や自己肯定感を高める指導が有効だと思う。 ○ 地区の子ども会が少なくなってきたと聞いている。子ども同士、親同士、地区住民との関わりを深めるためにも、子ども会は復活した方がよいと思う。
	児童には、周りの人を思いやる優しい心が育っている。				
	児童は、あいさつが進んでできる。				
	児童は、自分で決めたことを粘り強くやり抜くことができる。				
児童の健康安全面の評価	児童は、テレビを見たりゲームをしたりする時は時間やルールを守ってやっている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビやゲームのルールについては、保護者の評価が低い。家庭でのルールが十分には守られていない様子が伺える。テレビやゲームの時間が長くなると、生活のリズムが崩れたり、外遊びが少なくなったりすることへもつながる。家庭への啓発が必要である。 ○ 歯磨きや手洗い、手指消毒等の生活習慣への評価は高い。コロナ感染症をはじめ、病気の予防への意識が高いことが伺える。 	3.2	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価の結果及び今後の改善策は適切である。 ○ テレビ・ゲームに関しては、家庭でのルールや指導に影響を受けるので、引き続き家庭への協力をお願いする必要がある。 ○ 宿題が多いとゲームにあてる時間が少なくなると思う。量とのバランスが重要になる。 ○ テレや・ゲームのルールをしっかりと守るように指導方法を保護者に伝えてほしい。 ○ テレビやゲームのルールは、各家庭で考え方や意識が異なるので、何とも言い難い。個人的には、テレビやゲームより外で走り回ってほしい。学校では、テレビやゲームのデメリット等を教える程度でよいと思う。 ○ テレビやゲームなどのルールについては、家庭での考えや家庭環境もあり、啓発することが大事であるといえる。メディアへの対応は大人の社会でも活用し効果的に進化して、効率性も高くなっている。子どもたちにメディア以上の楽しさや喜びが与えられるような心身によい影響のあるものがあるとよい。 ○ 自分の孫を見ても、YouTubeなど、時間が守れず、ついつい長く見て、親から怒られるようだ。 ○ 手指の消毒、手洗い、歯磨きなど予防の意識が高いと思う。 ○ 友達同士で自転車で移動したり、遊んだりする姿をたまに見る。コロナ禍で遊ぶところが制限され、大変だと思う。スポーツ少年団に所属している子どももいて、遊びの形も変化しているように思う。
	児童は、(早寝・早起き・朝ごはん等)生活のリズムが身に付けている。				
	児童は、外遊びなど積極的に運動している。				
	児童は、歯磨きや手洗い、手指消毒等の衛生習慣を身に付けている。				
保護者に関する評価	保護者は、学校行事や参観日等に積極的に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参観日の参観率は80%程度あるが、奉仕作業等のPTA行事への参加率は50%程度である。次年度もコロナ禍の活動制限の中での活動となる場合が多いと予想されるが、参加を積極的に働きかけていく必要がある。 ○ 学校だよりや学級通信等で学校の様子を積極的に発信し、学校への理解を深めてもらうための一助としたい。 	3.2	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価の結果及び今後の改善策は適切である。 ○ PTA行事への参加率については、会長として責任を感じている。PTA執行部から協力願いの発信を続けていく。 ○ 保護者もホッとできる企画があると落ち着くのではと思う。 ○ PTA行事の参加率が低いのは、今後のPTA活動を行う上で課題とする。「子どものために参加しないと」思ってもらえるような工夫が必要である。 ○ 少子化の中で、子どもに対する関心や関わりは、積極的である保護者が多い。参観内容は保護者の学びにつながるものもあり、個人差はあるが、学校や社会に見守ってもらっている感謝の気持ちも保護者には育っていると思う。 ○ 自分の経験より。年子だった2人の子どもが、土々呂小の時は、歯科に勤務していて、なかなか仕事を抜けられなくて、授業参観を駆け足で見て、すぐ帰る、熱心な親と言える状況ではなかった。土々呂中に入学したままPTA役員、4年間広報部で、学校新聞を作り、楽しくやりがいのある活動ができた。ちょっとしたきっかけで親も変わるのではないだろうか。
	保護者は、PTA活動に積極的に参加している。				
	保護者は、学校だよりや学級通信、学校からのお知らせ等はよく読んでいます。				

【次年度へ向けて】

- ① 学ぶ意欲と確かな学力を育成する・・・ICTの効果的な活用、授業の工夫改善、家庭と連携した家庭学習
- ② 読書好きな児童を増やす・・・・・・図書館利用の促進、家庭での読書・読み聞かせの促進
- ③ 安心安全な学校づくりを行う・・・・・・日々の観察や教育相談の充実、家庭や外部機関との連携、学校のきまりや交通ルール遵守への指導
- ④ 心身ともに健康な児童を育成する・・・あいさつ運動の促進、外遊びの励行、望ましい食習慣・衛生面への指導、家庭と連携した生活のリズムづくりやメディアとの付き合い方の指導